

第 608 回：文字数が足りない!!何かが足りていないかも？（MI）

みなさんこんにちは。レポートや卒論を書いている時、どんなことで悩みますか？内容や引用の仕方等、悩む要素は数多くあるかと思いますが、実は多くの悩みはレポートを書く回数を重ね、執筆に慣れていくことで解決できるものが多々あります。しかし文字数に関しては、あることを意識しないとやや解決が難しいかもしれません。ですが言い換えれば、レポートや卒論はあることを意識して書き進めれば、いつの間にか既定の文字数に達することができます。今回は文字数に困らないために意識したいことについてお話します。

「文字数が足りていないレポート・卒論」は、端的に言えば説明が足りていません。実はレポートや卒論といった文章を書いている時、そしてそれらを見直している時、私たちは文章の足りていない部分を頭の中で自動的に補完しているのです。文章を書くには、頭の中で選んだ言葉や作った文をアウトプットする必要があるのも、そもそも一貫した過不足のない文章を書くことは難しいです。レポートや卒論はこういったアウトプットの積み重ねになります。なので、自分の中では書かなければいけないことを全て書いたつもりでも、意外と多くの抜け穴が存在します。つまり、ここで意識的に自分が頭の中で補完していることを把握し、文章に落とし込むことができれば、レポートや卒論内で丁寧な説明をすることができ、なおかつ文字数も増やすことができます。

では、ここで具体的に抜け穴を探して埋める方法を探してみます。まず初めに意識したいのは、論文が持つ「型」に沿って書くべき

ことを書く、ということです。論文には、必ず書かなければならないものがいくつもあります。「はじめに」では、研究背景、研究の目的、論文の構成等を書く必要がありますし、「結論」では、それまで論文で書いてきたことを改めてまとめる必要があります。もちろん論文の中で最も重要なのは「本論」の部分なので、「はじめに」と「結論」がだらだらと長くなってしまうのは避けなければいけません。しかし、論文の「型」に必要なものを丁寧に書けば、抜け穴は埋まりますし、それなりの分量になると思います。

次に意識したいのは、初めて読む人にもわかりやすい文章を書く、ということです。自分が先行研究を読んでまとめたことや、自分の中で新たに考え出したことは、レポートや卒論を書いている本人にとってはずっと向き合っていることなので最早常識のように感じられるかもしれませんが、初めてレポートを読む人にとっては全く新しいことかもしれません。そのため、自分の主張をわかってもらうためにも、できるだけ過不足なく丁寧に伝えることを意識しましょう。

文章の抜け穴を見つけるには、見直しの際の音読も有効です。ここで、つらつらと長くなってしまっている文章を区切ったり、接続詞を追加したりできますし、論理の飛躍を見つけることもできます。これらの作業も、相手に読みやすい文章につながります。

このように、論文の「型」に必要なものを書いたり、相手に伝えるために丁寧に書いたりすれば、文字数を心配する必要はありません。最初は慣れないかもしれませんが、レポートや卒論を書くときは、できるだけ抜け穴

第 608 回：文字数が足りない!!何かが足りていないかも？（MI）

を埋めることを意識して書いてみてください。
い。